

自治協議会等ヒアリング結果（ 中央区 ）

1自治協議会について「制度ができてよかったこと」、「運営していて困っていること」は、どんなことですか。 ○制度ができてよかったこと ・各種団体の横断的な繋がりができ、校区のまとまりができた。（5校区） ・各組織が活発に機能を果たし、活動も活発になり、地域が活性化した。 ・部制により、民主的な人選ができるようになった。 ・町連中心の組織から各種団体も認知され、運営がスムーズになった。 ・各種団体の活動がよく分かるようになった。（2校区） ・自治協へ衣替えして、(努力の結果) 校区内住民に認知度が高まった。 ・責任体制が明確になった。 ・各種団体役員が自治協の運営に積極的に参加するようになった。 ○運営していて困っていること ・各種団体の一本化で事務が増加し、人件費も増加。 ・行政機関のいろんな部署から相談、連絡、推薦願などの書類や電話が多い。 ・各組織の活動内容の重複が多すぎる。縦割り行政の弊害。 ・自治協は、地域住民役員同士の協議組織なので、町内会長への徹底が困難。 ・自治会長の意識の中に町世話人制度の名残があり、意識改革が必要。 ・自治協議会の事務所や打ち合わせの場所、備品等の置き場がない。 ・各部員の高齢化や仕事をしている方もいて、行事への参加が困難。 ・各種団体が、いくらでもお金があるように錯覚して困る。 ・人尊協や社協は、もっとシンプルに。自治協との関係も不明確。（2校区） ・新任町内会長やPTAの新人とともに組織の内容を把握していない。	
2活力あるまちづくり支援事業補助金について、ご意見をお聞かせください。 使い方を自分たちで決められる補助金制度ができたことによって、新たに始められた事業はありますか。 ○活力あるまちづくり支援事業補助金について ・各種団体の補助金等使途が、ある程度透明にできた。（3校区） ・それぞれの予算の範囲内で計画的に事業を実施できるようになった。 ・補助金があることを前提に、各団体の事業計画がマンネリ化、進歩がない。 ・来年度に向けて、事務所開設、事務員採用を検討中。 ・従来の各団体への予算が既得権化して、仕事の量も予算も公平にしたい。 ・事務費の上限や補助対象外等規制が多く、より弾力的な運用を可能にしてほしい。（3校区） ・活力補助金を重点事業に優先するなど、より弾力的運用が可能。（2校区） ・各種団体・委員等への直接配分の予算は、自治協議会を窓口として配分を。 ・必須事業に限定配分しているが、今後全団体に展開していくことが重要。 ・おやじの会設立支援や親子ふれあい事業の支援を始めたい。 ・活力補助金で一番得をしたのは、市財政当局、貧乏くじを引いたのが会長。 ○新たに始めた事業 ・子ども達（小学生）への見守り活動。 ・親子のふれあい事業。 ・小学校スクールガードの設立。 ・自主防災組織・危機管理部門を創設。（4校区） ・公民館に事務スペースを借り、電話とファックスを設置、事務職員を採用（7校区） ・祭りや新春のつどい、子育て支援などの事業内容を充実。（4校区） ・自治協の構成団体にボランティア協議会が加入、他の構成団体の要望に応じた協力体制をつくった。	
3公民館の地域支援について、どのようなことを期待していますか。 ・自治連業務の全面的な受け入れ。 ・行政からの各種相談、推薦願い等への対応 ・「公民館だより」で地域の様々な活動について常時周知。 ・公民館の人件費・設備費等を、地域活動の中心に位置づけて生かすべき。（2校区） ・地域活動に積極的に関わって欲しいが、職員の増員、予算の増加が必要。 ・小学生、中学生の育成支援や、男親の引っ張りだし。 ・公民館に地域の話し合いがいつでもできるスペースの確保。（2校区） ・一部の旧住民にかたよらず、マンション住民等95%の新住民への利用促進。 ・運営懇話会は、画一的ではなく地域性を重視して懇話会での意見を反映してほしい。 ・社会教育の場と大げさなものでなく「皆集まっておいでよ」と言える公民館になった方が良い。その上で、自治協と窓口を一本化できれば。 ・公民館職員に、従来の教育委員会と市の立場を無意識のうちに使い分け、個人差がある。この意識付けをはっきりしてほしい。 ・公民館が地域支援としての位置づけや認識が不十分のため、地域からの要請も受け入れないことが多く、何も期待していない。 ・広報、連絡、情報収集、コピー等自治連の総務の仕事。 ・行政への報告書作成等の業務。 ・地域と行政の繋ぎ役。 ・自治連活動と一体となった事業を一層積極的に実施してほしい。 ・地域活動に役立つ「コミュニティセンター」になっていない。 ・地域活動ボランティアの発掘、地域活動の芽を育てて欲しい。 ・公民館の早期改築。 ・公平、公正な運営。（2校区） ・私物化、独善的、非協力的にならないように。	
4その他、コミュニティ施策全体について ・校区住民の80%を占めるマンション居住者をいかに地域との関わりを持ってもらうかが大きな課題。（2校区） ・町内会長＝町世話人という制度の時代は、それなりの金額を支払っており、その当時に、町内会・自治会の確立を図っておくべきだった。 ・町世話人制度をなくした今の施策は、地域の奉仕活動のみに頼ることになり、公民館職員の働き、公民館の利用が一層大事になってくる。 ・校区に市・行政の指導による団体や組織が多く、事業も画一的になり、校区の特色が出ないのではと思う。 ・ソフトボール大会、ペーロン大会、市民フェスティバルなど、区の各種大会への参加が、飲食代やユニフォーム代等への支出の不透明さを生んでいる。 ・校区は、行政施策の窓口として自治協議会会長に殆ど一本化できたが、市の方がバラバラで、校区の定例連絡会に、地域支援課職員が出席してはどうか。 ・市政だよりを始め配布物が直接配付となり、隣近所の会話が少なくなった事など、自治活動、各団体活動において参加する意識が希薄に感じている。 ・単年度のみの助成事業では、次年度から自主財源を確保しなければならず、事業の継続がとても厳しい。 ・行政機構の中で地域支援課が中心に機能していることは、今後の地域活動において他所の情報も得られ、参考にできるなどのメリットがある。 ・住民の意識改革のために、行政による啓発が必要。 ・地域整備部は、予算の関係だと思うが、地域の要求に消極的。	
5地域活動をしていて「よかったこと」、「困っていること」は、どんなことですか。 ○良かったこと ・地域、行政と、いろいろな人と出会い、地域全体を知った。（3校区） ・地域行事への若い人の参加や協力者が多くなった。（2校区） ・会長になって仕事は多くて大変だが、周囲の視線が柔らかくなり、校区民の信頼を得てきた。 ・校区に連帯感ができてきた。商店連合会も、地域に目を向けてきた。 ・地域役員、小学校、中学校との連携がとれるようになった。 ○困っていること ・後継者の発掘・育成。役員等のなり手が少ない。（4校区） ・多くの住民は地域活動に無関心で、積極的な参加者が少ない。（3校区） ・事業が拡大することで、財源確保も容易ではなくなった。 ・良かったことはない。早くやめたい気持ちになる。自分の時間が取れない。 ・各種団体の不明瞭・不公平・非公開の現状に困っている。 ・町世話人制度の頃から町内会長を続けている町内会に、会計、監査などを兼任している者が多い。 ・個人情報保護の観点から、居住者情報が得にくく、居住者台帳もないため、諸行事が困難。（2校区） ・永年住んでいても、知らない人々や場所も多く、今後この人達、地域とどのように意思疎通を図るか試行錯誤の毎日。 ・町内会長や各種団体にも自治連の活動に全く無関心の者も多い。 ・事業所(企業)が多いが地域活動にほとんど無関心。 ・市は、自治協会長を世論操作の道具にしないで欲しい。 ・多忙になって大変。 ・会議等の曜日、時間の設定に苦慮している。	
6その他、日ごろの地域活動でお気づきの点をお聞かせください。 ・間違いだらけの個人主義の人が多い。 ・ワンルームマンションの乱立状態の中で、町内会会費の徴収が困難。 ・イベントや催しごとなど、行事が多過ぎる。（2校区） ・井戸端会議的な日常会話がある地域と、一戸一戸が交流のないマンションなど、同じ町内でも大きな差があるが、特に差しつかえることはないのが現状。 ・高齢化で、単位町内会長のなり手がない。自治協会長は、どこも町内会長がなっていて、それがいいと思うが、単位町内会がこんな状態では先行き不安。 ・私共は、父親が他の社会で働いている間、地元に残る妻子の安全・安心を見つめているが、若い父親は、そんな考えをしているのだろうか。 ・地域行事にもっと多くの男性に参加してもらえるようにしたい。 ・時の流れ、まちの流れ、人の流れへの対応を、迅速、的確にやるべき。 ・国勢調査は、住民の協力が得られにくいので、郵送方式等に変えて欲しい。	